
[成果情報名] 新病害キウイフルーツすす斑病の病原菌

[要約] 近年県内のキウイフルーツの葉裏に発生する黒色のすす状斑と果実に発生する陥没症状の原因は *Pseudocercospora actinidiae* Deighton による新病害（キウイフルーツすす斑病（英名：sooty spot））である。

[キーワード] キウイフルーツ、すす斑病、*Pseudocercospora actinidiae* Deighton、新病害

[担当部署] 病害虫部・病害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

[背景・ねらい]

近年、県内のキウイフルーツにおいて葉裏に黒色のすす状斑が発生している。葉にすす状斑が見られるほ場では陥没症状を呈した果実が発生し、問題となっている。キウイフルーツにおけるこれらの症状についての既報はないので、原因を解明する。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 病斑から分離される菌は、分生子（図 1）や分生孢子柄の特徴から糸状菌の一種である *Pseudocercospora actinidiae* Deighton と同定された（表 1、一部データ略）。
- 2 . 分離菌株を用いて培地上で形成させた分生子を展葉中の葉や幼果に接種すると、病徴が再現され、この病徴から同様の菌が分離された（データ略）。
- 3 . 以上のことから、本症状を *Pseudocercospora actinidiae* Deighton によるキウイフルーツすす斑病（英名：sooty spot）と仮称する。
- 4 . 罹病したキウイフルーツは葉裏に黒色の菌叢が盛り上がった様なすす状の病斑（図 2）と果実の陥没症状の病斑を生じる（図 3）。果実の病斑の中央には、しばしば黒色の菌叢が見られ、内部の組織は淡褐色から黒色に変色し、空隙が生じる（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 新病害として果樹病害虫・雑草防除の手引き平成 20 年度版に掲載した。
- 2 . 本病は日当たりや風通しの悪いほ場で発生が多く、主に遅伸びしている新梢の葉に発生する。
- 3 . 本病はハイワード、レインボーレッド、雄樹のトムリで発生を確認している。特に、レインボーレッドでの発生が多い。
- 4 . 果実の病徴はカメムシの吸汁痕と酷似しているため、混同しないよう注意が必要である。果実の病徴が見られる場合は葉にも病徴が見られることや、果実の陥没の中央にすす状の菌叢が発生することでカメムシの吸汁痕と区別できる。

[具体的データ]



図 1 分生子
注) バーは 10 μ m



図 2 葉裏の病徴

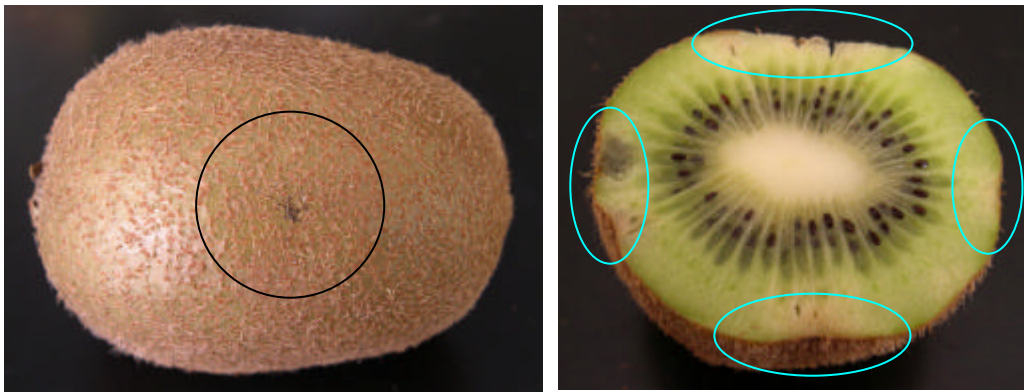


図 3 果実の病徴 (左: 収穫果、右: 切断面)

表 1 分離菌株と *Pseudocercosporaactinidiae* Deighton の比較

	形状	色	大きさ	隔壁数
分離菌株	円筒状～倒棍棒状	淡オリーブ褐色	41-78 × 4.3-5.8 μ m	6-8
<i>Pseudocercospora actinidiae</i> Deighton	円筒状～倒棍棒状	淡色～オリーブ色	36-90 × 5-7 μ m	3-9

[その他]

研究課題名: 突発性病害虫の発生生態と防除

予算区分: 経常

研究期間: 平成 19 年度 (平成 18 ~ 19 年)

研究担当者: 菊原賢次

発表論文等: Journal of General Plant Pathology (2008) Vol. 74. 185-187